

JASE

# 現代性教育 研究ジャーナル

MONTHLY JOURNAL of SEX EDUCATION TODAY

2017年  
No. 77

2017年8月15日(毎月15日)発行

日本性教育協会

THE JAPANESE  
ASSOCIATION  
FOR SEX EDUCATION

〒112-0002 東京都文京区小石川2-3-23 春日尚学ビル Tel.03-6801-9307 Mail info\_jase@faje.or.jp URL http://www.jase.faje.or.jp 発行人 鈴木 勲 編集人 中山博邦  
© JASE. 2017 All Rights Reserved. 本ホームページに掲載している文章、写真等すべてのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。

contents

第23回WAS国際会議報告	1	Dr.上村茂仁の性の悩みクリニック⑰	10
多様な性のゆくえ⑤	7	今月のブックガイド	11
性教育の現場を訪ねて⑤	8	JASEインフォメーション	12

## ◎第23回WAS (World Association for Sexual Health)国際会議報告

# 性の健康への権利について (RIGHTS TO SEXUAL HEALTH FOR ALL)

## 学ぶ、語る、国際会議

WAS 諮問委員会／科学委員会／性の権利委員会  
大阪府立大学人間社会システム科学研究科教授

東 優子

### はじめに

性科学(セクソロジー)に関する最大の国際学会であり、アジア・オセアニア性科連合(AOFS)・アフリカ(AFSHR)・ヨーロッパ(EFS)・南米(FLASSES)・北米(NAFSO)など、世界5大陸に下部組織を有するWAS(World Association for Sexual Health)は、1978年ローマ大会を初回として、学術集会・国際会議を隔年開催している。

日本性教育協会(2012年4月1日に日本児童教育振興財団と合併)、日本性科学会、日本思春期学会などが団体登録しているほか、諸外国ではとくに臨床家・研究者などの個人会員も多い。その第23回目となる国際会議が、2017年5月28日～31日、プラハ

(チェコ共和国)において開催された。

### 「魔法の都」に参集した650名(70か国)

開催地となったプラハは、世界遺産にも登録され、「ヨーロッパで一番美しい都」とも称される人気の観光地である。かつての王様が錬金術や占星術に傾倒していたことから「魔法の都」とも呼ばれ、偉大な作曲家スメタナを輩出し、多くの美しい劇場を配した「音楽の都」でもある。ちょうど「第72回プラハの春国際音楽祭」の開催時期と重なっていたこともあり、多くの観光客で賑わっていた。

大会長のPetr Weiss教授が教鞭をとるカレル大学は、世界で最も古い性機能学研究所が設立された大学としても知られる。「プラハは、世界初の脳脊髄液滴

法を考案した Kurt Freund 教授や、勃起機能不全の男性患者に初の血管顕微手術を行った Václav Michal 教授を輩出するなど、性科学の歴史において重要な役割を果たしてきた」(会長挨拶) という。

会場となったのは、観光中心地へのアクセスも便利なクラリオン・コンGRESS・ホテルで、登録者数は 650 名 (70 か国) であった。欧州諸国からの参加がその半数以上を占め、国別でみるトップ 10 は、米国 (62 名)、ブラジル (45 名)、英国 (43 名)、日本 (30 名)、オーストラリア (30 名)、イタリア (28 名)、スウェーデン (26 名)、スペイン (25 名)、フィンランド (24 名)、チェコ (23 名) であった。

参加登録料には、学生割引のほかに、「看護師・レジデント・セラピスト・教員・NGO 職員」に対する特別枠が設けられてきたことから、これらの肩書をもつ参加者が全体の約 40% と最も多く、男女比は 6 : 4 で女性が多かった。

## 多彩なプログラム

プラハ大会の概要は、表に示すとおりである。開会式直後の会長講演では、今回で任期満了となる Kevan Wylie 会長 (英国) が「関係性・加齢・平等」と題した講演を行い、有終の美を飾った。これに続いて、性科学の偉人ジョン・マネーの名を冠した記念講演では、カナダ・コンコルディア大学の James Pfaus 教授 (心理学) が「性的欲求、喜び、障害に関する脳機能」に関する最新知見を紹介した。

### プラハ大会の概要

参加登録者数	650
参加国	70
アブストラクト応募総数	503
シンポジウム	26
ワークショップ	6
招待・基調講演	35
会長講演	1
ジョン・マネー記念講演	1
ゴールドメダル (金賞) 講演	5
WPATH 特別講演会	1

※ WPATH = World Professional Association for Transgender Health



夕暮れ時、プラハ城へと続くカレル橋

毎回の大会を特徴づける「招待・基調講演」については、私も委員のひとりである WAS 科学委員会が、地域・ジェンダー・専門領域のバランスを勘案しつつ、多数の候補者から厳選した演者を単独講演とテーマ別のプレナリー・セッションに振り分け、学際色豊かなプログラムを組んだ。登壇者と演題は、以下の通りである。

### 【招待講演】

- Aken'Ova, D. (ナイジェリア) 女性、若者、LGBTQI に関する政策、そしてアドボカシー
- Carter, S. (米国) 愛のヒーリング・パワー：オキシトシンに関する仮説
- Dettmeijer-Vermeulen, C. (オランダ) 子どもに対する性暴力への取り組み
- Doherty, M. (カナダ) 中国・ハルピン医科大学における性の健康専門職の養成から得られた教訓
- Fedoroff, P. (カナダ) パラフィリアとパラダイム
- Green, R. (英国) セックスの変遷：1930 年代の欧州、1950 年代の米国
- Hakim, C. (英国) 21 世紀におけるセクシュアル市場とエロティック資本：インターネットのインパクトについて
- Mitchell, K. (英国) 若者の性機能とウェルビーイング
- Terrein-Roccatti, N. (メキシコ) セクシュアリティの構成要素としての情緒的・心理学的表現
- Toates, F. (英国) セックスに関するインセンティブ・モチベーションと階層モデル
- Sara Nasserzadeh (イラン／米国) 世界の性器：文化的規範 vs. 世俗的流行



開会式の様子



座長を務める大川玲子氏（日本性科学学会会長）

## 【プレナリー・セッション】

### 1 心理学的介入の新しい潮流

- 1-1 Bischof, K. (スイス) Sexocorporel: セックス・セラピーに重要な身体について
- 1-2 Nobre, P. (ポルトガル) 性機能障害に対する新しい治療的アプローチ：性的関心や肯定的感情をどう高めるか
- 1-3 Coleman, E. (米国) 衝動的／強迫的性行動：性に肯定的かつ統合的な治療モデルについて

### 2 性科学の過去・現在・未来

- 2-1 Giami, A. (フランス) セクシュアリティの科学
- 2-2 Rubio-Aurioles, E. (メキシコ) 性科学者の立ち位置：横断的モデルの必要性
- 2-3 Corona-Vargas, E. (メキシコ) WASにおける女性：ジェンダーの平等・公平に向けた闘いの歴史

### 3 性医学

- 3-1 Bitzer, J. (スイス) 性医学：身体医学と心理療法
- 3-2 Vignozzi, L. (イタリア) メタボリック・シンドロームとBPH：炎症と性ステロイド・バランスの興味深い役割

### 4 トランスジェンダーとノン・バイナリーな焦点

- 4-1 Winter, S. (豪) WHO がスポットライトを浴びているのか？ ICD-11におけるセクシュアリティと疾患／障害概念を問う
- 4-2 Adrián, T. (ベネズエラ) 「倒錯したジェンダー・イデオロギー」を成敗する十字軍：トランス、インターセックス、両性具有、あるいは

は流動的なジェンダーを生きる人々を攻撃する原理主義者による新しいキャンペーンの展開

- 4-3 Higashi, Y. (日本) SOGIE と人権をめぐる日本の当事者運動と健康アプローチの影響

### 5 性（セクシュアリティ）教育

- 5-1 Yankah, E. (ドイツ／ガーナ) 包括的性教育：その起源とエビデンス、そして未来
- 5-2 Paalanen, T. (フィンランド) コミックを使った性教育：重い課題を扱う軽い媒体について

### 6 関係性とセクシュアリティ

- 6-1 Janssen, E. (ベルギー／米国) 境界線のない海のごとく：セックスと関係性に関する研究の新しい方向性
- 6-2 O'Sullivan, L. (カナダ) ロマンズ・歓喜・亀裂・繰り返し：若者の親密な関係性における試練と苦難

### 7 性の権利

- 7-1 Hernandez-Serrano, R. (ベネズエラ) 人間の性の権利：20年の概観（1997-2017）
- 7-2 Perelman, L. (メキシコ) ホモフォビアやトランスフォビアに打ち勝つための、家族の受容と支援
- 7-3 Castellanos-Usigli, A. (メキシコ／米国) & A.Braeken, D. (オランダ) Fulfill 若者の性の権利を実践にどう組み込んでいくか

### 8 女性とセックス

- 8-1 Kontula, O. (フィンランド) 女性のオーガズムを規定する要因
- 8-2 Brender, J. (ブラジル) 異性愛女性における性的興奮の誘因をマッピングする

- 8-3 Adaikan, G. (シンガポール) 女性のマスターベーション：頻度・特徴・治療上の意義
- 8-4 Rudolph, E. (南アフリカ) 女性の性交痛障害
- 9 ポルノグラフィ
- 9-1 Attwood, F (英国) 若者とポルノグラフィ
- 9-2 Štulhofer, A. (クロアチア) 思春期の若者の性的デビューとコンドーム使用に与えるポルノグラフィの影響（縦断的研究）

シンポジウムは、様々な学会や WAS の各種委員会によって企画されていたことから、性科学に関して世界にどういった団体・組織が存在しているのかを垣間見ることができるという意味でも興味深かった。以下にタイトルと企画団体・組織の一覧をご紹介します。

**【シンポジウム一覧】** ※（ ）内は、企画団体名

- ① 性的興奮と欲望が消え失せるとき (IASR = 性研究国際学会)
- ② 性医学における最新動向 (ISSM = 国際性医学協会)
- ③ 差別のない性の健康サービスに関するケア基準の開発 (UNAIDS = 国連エイズ合同計画)
- ④ セクシュアル・サイエンス研究の最前線と豊かな中国のセクシュアル・アート (World Chinese Society for Sexology = 世界中国性科学学会)
- ⑤ 女性の性的欲求をどう改善するか (FLASSES = ラテンアメリカ性科学連盟)
- ⑥ 性教育の現在 (WAS 性教育委員会)
- ⑦ 男性の包皮切除術：語られてこなかった影響の追究 (Sexpo Foundation = フィンランド・セクスポ財団と Genital Autonomy = 性器の自律に関する権利擁護組織による共同企画)
- ⑧ AASECT 創立 50 周年記念：性の教育とセラピーの展望 (AASECT = 全米性教育・カウンセラー・セラピスト協会)
- ⑨ セクシュアル・ケアにおいて見過ごされているニーズ (ESSM = ヨーロッパ性医学協会)
- ⑩ アフリカにおける SRHR の現況：コミットメント・政策・行動の検証 (AFSHR = アフリカ性の健康と権利協会と ACCPD = 人口と開発に関するアフリカ CSO 連合による共同企画)
- ⑪ 性機能障害の概念と治療の進展 (ABP = ブラジ



シンポジウムの様子

- ル精神医科学会) ※ポルトガル語のみ
- ⑫ ポルトガルにおける現代性科学の潮流 (SPSC = ポルトガル臨床性科学協会と SPA = ポルトガル・アンドロロジー協会の共同企画)
  - ⑬ 性の喜び：包括的概念から実践へ (WAS)
  - ⑭ チェコにおける性科学 (WAS)
  - ⑮ 性の健康と生殖の健康の間に壁が存在するのはなぜか (PAHO = 汎米保健機構と WHO の共同企画)
  - ⑯ 性教育とセラピー (SSSS = 性科学研究協会)
  - ⑰ 性科学の臨床に関する新しい知見 (EFS = 欧州性科学連合)
  - ⑱ 若者の性の権利 (WAS と IPPF = 国際家族計画連盟の共同企画)
  - ⑲ 持続可能な開発目標 (SDGs) を通じた性の健康の推進と人権 (UNESCO Chaire Sexual Health & Human Rights = 性の健康と人権に関するユネスコ・チェア、SFSC = フランス臨床性科学協会、他による共同企画)
  - ⑳ 性の健康について脆弱性の高い人口集団に関するグローバルな研究 (SSSS = 性科学研究協会)
  - ㉑ セクシュアリティに関するハウツー：科学的かつ介入的な横断的理論と学際的研究 (SBRASH = ブラジル人間の性協会)
  - ㉒ 女性の性の健康：ブラジル産婦人科連合の見解 (SBRASH と FEBRASGO = ブラジル産婦人科連合の共同企画)
  - ㉓ 南インドにおける性機能：前向きコホート研究 (IAFS = インド性科学学会)
  - ㉔ 生殖の健康との連関における性の健康に関する採

作的フレームワーク (WHO)

- ㉔ 性の権利と今日的課題 (WAS 性の権利委員会)
- ㉕ LGBT に関する研究の未来 (FISS = イタリア科学的性科学連合)

プラハ大会では、4年に1度の役員選挙が実施され、21名の新しい役員が選出された。

続いて開催された役員会議で会長に選出されたのは、ポルトガル・ポルト大学のヒューマン・セクシュアリティ研究所 (通称セックスラボ) 所長、Pedro Nobre 教授である。彼は、臨床心理学が専門で、キンゼイ研究所 (米国) の研究員でもある。

プレナリー・セッションでは「性機能障害」に関する講演を行ったが、それ以外にも性の健康に関する幅広い調査研究に従事しており、様々な賞も受賞している。さっそく、10月にはポルトガルで「性の健康と権利」の推進に関する戦略会議会合することが決まるなど、会長をはじめとする新体制のメンバーは意欲的である。

## 参加者の感想

以下に、早乙女智子氏 (京都大学大学院客員研究員・産婦人科医) と、福田和子氏 (国際基督教大学在学学生) による報告をご紹介します。早乙女氏は、毎年9月4日に、世界各国で展開される「世界性の健康デー」記念イベントを初回2006年から企画・運営していただくなど、WASへの貢献は計り知れない。今年も関東圏でイベントを開催していただけるようである。

福田氏は、彗星のごとく現れた若手ホープである。現在、スウェーデンに留学中というだけあって、抜群の語学力と豊かなコミュニケーション能力を活かし、さまざまに人脈も広げられたようである。

### ◆オプションツアー「性教育」視察にも参加

なかでも印象的だったのは、朝の Sexocorporal (身体的性アプローチ (仮)) のワークショップに参加したことだ。ワークショップは参加費がさらに別にかかるもので、少人数だからこそ、自己紹介や発言を求められるのが怖くて今までなかなか参加できなかったが、今回、気付けば勝手に意見を述べていた自分がいた。

セクシュアリティは、感情と、認知、そして感覚や



左から WAS 前会長、プラハ大会会長、WAS 新会長

生理と密接に関連しているという考え方である。筋緊張や呼吸の仕方、骨盤を動かすことなど、単に感情と思われていることも身体感覚や刺激によって変わる。部屋の中をただ歩く、という課題では、人は誰かの後をついて行ってしまったり、お互いを避けて歩いたりするものだと気づく。握りこぶしを作って歩くと何となくアグレッシブな自分に気づく。お尻を意識して歩くと、性的な意味合いが発生したり、好き嫌いが出てくる。このように、性は身体感覚と切り離せないもので学習できるという学びだった。

また、学会を離れて、街中に視察に行った。IPPF のチェコ版であるナーロードニー・インスティテュート (NLDV: Narodni Institute Pro Dalsi Vzdelavani) では、性教育者の教育をしている。チェコでは、国が主導するものと、学校単位のもの、そしてその他の民間のものがあり、避妊や性感染症予防教育も充実しているように思われた。引き続き、小学校の見学に行った。Zakladni Ecola・Chelocickeho という小学校で、生物の授業として You Tube に上がっているカートゥーンを使っているようだ。若い校長先生が案内してくれた。

600人以上の参加者のうち、日本は4番目、30人が参加し、オーラル7名、ポスターも7名が発表していた。個人的には、PGAD (Persistent genital Arousal Disorder: 持続性性喚起障害) の演題に興味があり、カナダのクイーンズ大学の研究者が用語の認知度の調査をしていた。疾患名の妥当性も含めて国内でも行いたいテーマである。

早乙女智子 (京都大学大学院医学研究科人間健康科学系客員研究員・産婦人科医)

### ◆性をポジティブに語る学会に感激

私は今回初めて WAS に参加した。なかでも強く印象に残ったのが、性をポジティブに捉え、語ってゆくことの重要性である。

会場では、かたや性暴力、セックスがいかに人を傷つけるか、かたやオーガズム、セックスがいかに人を喜びに導きえるかという、一見正反対に見えることを、WAS という一つの場で、それぞれの研究者が互いの意見を受け入れ、尊重しながら発表していた。

それがなぜ可能かといえば、そこに集まる人の多くが、性は人を傷つけることも、幸せにすることもできる、だからこそ、科学的見地にに基づいた正しい知識をもって性を語り、性で人が傷つくのではなく幸せになれる社会を目指そうという共通認識が強く存在していたからのように感じている。

私は主に教育分野のお話を伺ったのだが、皆が目標として掲げるのは、教育の中でいかにセックスのリスク面をきちんと説明しながらも性をポジティブに語るか、また、そうすることで如何にセックスに対するステイグマを軽減し、より安全で確実なヘルスケアや情報、話しやすい環境に生徒を導いていくか、というこ

とだったように思う。

日本においては、未だ日常の性を、ましてポジティブに語るなんて難しいと感じる方も多いかもしれない。しかし、性、セックスをポジティブに、オープンに語ることは、性に奔放なこととも、性暴力までも容認することとも違う。むしろ、本来セックスはポジティブなものというマインドセットがうまれてこそ、日常の性生活においても嫌なことは嫌と認識し、傷つけ傷つけられることは回避し、社会においても性で人を傷つけることに断固として反対ができるようになるのだと思う。

かくいう私も、性をポジティブに伝えるのはもはや当然、あとはいかに実践するかという空気感には圧倒され、国際社会の風に当たる重要性を心底感じた次第である。

あの場で学べたことへの感謝と共に、また次回も参加できたらと、今から2年後を楽しみにしている。

福田和子（国際基督教大学在学学生／スウェーデン留学中）

※次回の WAS 国際会議は、2019 年にメキシコシティで開催される。

## JASE 性教育・セクソロジーに関する資料室

### 資料室について

JASE 資料室は国内外の性教育、性科学等に関する文献資料を収集している開架式資料室です。文献資料の数は約6万点以上、現在も日々、増え続けています。性教育、セクソロジーに関する調査、研究のためにご利用いただけます。人間の性に関心がある方、ぜひ足をお運びください。

【閲覧】必ず事前に電話で予約が必要です (tel 03-6801-9307)。貸出業務は行っておりません。

【開室日・時間】月～金曜日 10:30～17:30

【休室日】土・日曜日、祝日、年末年始 ※この他、会議等で臨時に休室することがあります。

【コピーサービス】コピー料金は用紙サイズにかかわらず1枚10円です。著作権法の許容する範囲で行うものとします。

<http://www.jase.faje.or.jp/pub/archive.html>

### 資料室 利用方法

### 収集文献 ・資料

統計・調査報告書、ジェンダー・フェミニズム、性教育一般・性教育の歴史的資料、国内雑誌、障害者、セクソロジー（自然科学系、人文・社会学系）、民俗学・文化人類学・風俗、性研究史・性学史、教科書・指導書・学習指導要領、幼児期～青年期、国内学術誌、国際（海外団体資料・海外学術誌）、高齢者・家族問題、文学・評論・エッセイ・文庫・新書、官公庁資料、JASE 刊行物、映像資料、個人論文、雑誌記事、新聞記事、絵本・写真集・マンガ、江幡・篠崎・朝山・石川・ダイヤモンド文庫、ほか。

<http://www3.jase.faje.or.jp/cgi-bin/search1.cgi>

# 多様な性のゆくえ

One side/No side [5]

宮田 一雄

みやた かずお  
ジャーナリスト。公益財団法人エイズ  
予防財団理事、特定非営利活動法人エ  
イズ&ソサエティ研究会議事務局長。

## 虹の旗はなぜ6色なのか

米国では1970年代からピンクの三角形（ピンクトライアングル）がゲイ・ライツ運動のシンボルとして使われてきたことは前回、キース・ヘリングのポスターに関連して紹介した。そのピンクトライアングル以上にいま、性的少数者の権利と多様性を受け入れる社会のシンボルとなっているのがレインボーフラッグ（虹色の旗）である。

日本にいと虹は7色と思いがちだが、実はレインボーフラッグは6色ですよ……と例によって知ったかぶりをしながらネットで検索してみると、あれ？最初は8色だったという。

米国の非営利民間非課税団体であるサンフランシスコ観光協会の公式サイト\*には「レインボーフラッグ略史」が掲載されている。この旗の発祥の地であることは、サンフランシスコの誇りでもあるのだ。略史をさらに要約して紹介しよう。

レインボーフラッグの生みの親であるギルバート・ベイカー氏は1977年、サンフランシスコで市議員のハーヴェイ・ミルク氏から「ゲイコミュニティのために、ピンクトライアングルにかわるポジティブなシンボルを作ってほしい」と依頼された。ミルク氏はその年、ゲイであることを明らかにして市議選に立候補し、「選挙で選ばれた全米初の公職者」となった人物だ。

ベイカー氏が完成させた新しいシンボルは8色の細い布を縫い合わせた虹の旗だった。ピンクはセクシュアリティ、赤は人生、オレンジは癒やし、黄色は太陽、緑は自然、青は芸術、藍色は調和、紫は精神をそれぞれ表わしている。

ボランティアの助けも借りて細長い布を染め、それを縫って巨大な8色のバナーが完成した。サンフランシスコ観光協会のサイトによると、ベイカー氏はそのレインボーフラッグ第1号を掲げたときのことを振り返り、『旗を掲げ風に翻って誰もが見ることができた。驚いたことに見た人がすぐにこれは自分たちの旗だと受け入れてくれた』と語っている。

翌1978年6月のゲイ・フリーダムデーではパレー

ドにこの旗が採用され、大量にフラッグを用意する必要が生じた。手作りでは間に合わない。ベイカー氏が旗製造会社に相談したところ、ピンクの布は在庫がないと言われ、8色は7色に変わった。

その年の11月にはミルク氏とジョージ・モスコネ市長の2人がサンフランシスコ市庁舎で射殺されるという事件があり、翌1979年6月のパレードでは、ミルク氏を追悼して目抜き通りのマーケットストリートに並ぶ街灯に旗を掲げることになった。このとき旗の色を2つに分け、3色ずつの旗を道路のそれぞれの側に掲げることにしたため7色の旗から藍色が除かれ、レインボーフラッグは以後も赤、オレンジ、黄、緑、青、紫の6色が定着したという。

ベイカー氏はその後、ニューヨークに移り、今年3月30日に自宅で亡くなっている。65歳だった。経歴をみると、1990年代半ばの少なくとも2年ほどは、私も同じ時期にニューヨークにいたのだが、お会いしたことも、取材したこともなかった。怠慢な記者だったということですね。

6色のレインボーカラーはいま、旗だけでなく、Tシャツからマグカップまで、至るところに使われている。再びサンフランシスコ観光協会のサイトからの引用で恐縮だが（何しろご本人に直接、取材できなかったもので）、ベイカー氏は『この旗は行動です。単なる布ではありません。自分の車や家にレインボーフラッグを飾ることは、単に旗を掲げているだけではなく、行動しているのです』とも語っている。

8色の旗が7色になり、さらに6色に変わる。その変遷の背景には大量生産上の都合があり、暗殺という悲劇を乗り越えようとする強い意思もあった。ベイカー氏自身はオリジナルの8色に強いこだわりがあったようだが、6色の普及を否定していたわけではない。その柔軟さもまた、世界中にレインボーな行動が広がる大きな支えになったのではないかと改めて思う。

※サンフランシスコ観光協会の公式サイト

<http://www.sftravel.com/article/brief-history-rainbow-flag>

[ 大阪府立刀根山支援学校 大阪精神医療センター分教室 ] (上)

# 人に気持ちを伝える、人やものとの境界線を知る…… 日常に根づく性教育を伝えたい

京都府・奈良県との府県境に位置する枚方市は、大阪市の周辺都市のなかでも有数の住宅数を誇るベッドタウン。大阪府で4番目の人口を擁し、数多くの学校施設がある。今回はその枚方市内にある、刀根山支援学校の分教室での創意工夫にあふれる性教育の実践をご紹介します。

### ハートケアが必要な子どもたちの分教室

刀根山支援学校は、本校教育部、訪問教育部と4つの病院に分教室を持つ病弱児童・生徒を対象とした支援学校。今回訪ねたのは、心のケアを必要とする児童生徒のための分教室で、主治医から学習を許可された小学生・中学生が入院・治療しながら病院と同じ敷地内にある分教室で学んでいる。

「この分教室では、その子の学習の力や特性をよみながら、得意なこと、いい面をゆっくりじっくり引き出していきたいと思っています。ここに来る子は、自分の気持ちをうまく表せない子どもがほとんどです。だから最初は子どもといっしょに、けん玉などの昔懐かしいおもちゃで遊んでみる。『わー、すごいなあ』『おもしろいなあ』—そんなふう子どもと感情を共有することからはじめます」

そう語るのは、分教室で性教育の実践を行う首席（養護教諭）の船木雄太郎さん。

「うちの分教室の職員は、けん玉が得意な先生、将棋が得意な先生と、みんな得意技があるんですよ。そして、僕の得意技はギター。その得意技を、保健や性教育の授業でふんだんに発揮します」。この日行われた、中学生の性教育の授業はプールが始まる前の指導で、大きなテーマはプライベートパーツと境界線。

授業は船木教諭の歌からスタートする。

### 子どもたちが笑顔になる授業

「うたい終わったあと、先生は歌が大好きで、今幸せな気持ちなんだけど、みんなはどうだった？ とた

大阪府立刀根山支援学校 校長・栗山和幸  
大阪精神医療センター分教室  
生徒数 小学生約15名、中学生約15名  
(入退院の時期により人数は変動する)  
職員数16名 (2017年7月1日現在)

ずねると『うるさかった〜』とか『先生へたくそやわ、失敗するかと思った』とか」(笑)。

どんな授業が始まるのか、とおそるおそる参加していた子どもたちも、そこで思わず笑顔になるという。

「赤ちゃんから大人になっていく間にみんな笑顔を



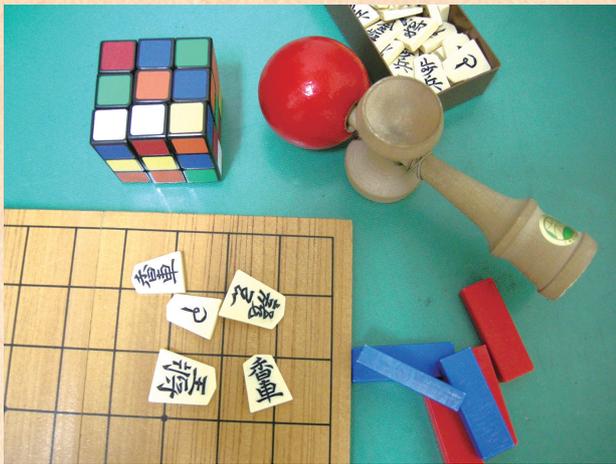
ぼくと わたしの きもち

作詞作曲 船木雄太郎

ぼくと わたしの きもち

うれしい「うれしい」

ぼくと わたしのきもち です



学んでいくんだよ。笑顔でうれしい気持ちを伝えたり、笑顔になれば周りの人も喜んでくれる。今先生どう？ 笑っているやろ？ 先生が笑ったらみんなも笑顔になってくれるから」

ではここでもう1曲、と船木教諭は自作の『ぼくとわたしのきもち』をうたいはじめる。

「うたってあげて、今笑った？ とまた、生徒たちに聞いてみる。日本語はすごく表現が豊かで耳の聞こえない人は手話で表現するんだよ～とって今度は手話の話をする。幸せというのは、老人が自分の長い白髪を2回さわる所作で表現するんだよ、と。

そしてみんなが互いに気持ちよく過ごすためには礼儀や決まりがある。じゃあ、プールはどうなんだろう、とプライベートパーツの話をしていきます」

プライベートパーツをイラストで示すが、それだけでは子どもの心に入っていない。そこで、実際に分教室の先生に立ってもらって「今から〇〇先生がズボン脱いだらどうする？」と投げかけてみる。「いや～気持ち悪い」と子どもたちの声が返ってくると、ジャジャーンとギターのアイントロで、「♪みせない、さわらない プライベートパーツ」と歌がはじまる。

船木教諭の授業は、こんなふうにポイントポイントに自作の歌が入って子どもたちを飽きさせない。

### 職員全員を巻き込んで、あらゆる場面で

生徒たちに見せるパワーポイントにも現場の先生方がたびたび登場して、生徒役になりきって着替え時のルール、人との距離感のとり方などを演じて見せる。

伝えたい大事なポイントは、子どもたちの頭に入りやすいように、動画ではなく写真でじっくり伝える。現場の先生が次々に登場するから、「あ、あれ、〇〇先生や」と授業中に眠たくなってきた子どもも、顔が

### プライベートパーツの うた

みせない さわらない プライベートパーツ  
 みせない さわらない プライベートパーツ  
 たいせつ たいせつ プライベートパーツ  
 みんなで まもろう このからだ  
 みんなで まもれば いいなかま  
 せいしんいりょうセンター ・ ぶんきょうしつの  
 やくそく  
 みせない さわらない プライベートパーツ  
 みせない さわらない プライベートパーツ

上がってくるという。

「授業のあとも教諭と生徒のあいだで『〇〇先生出てたなあ』という話題が広がって、そこでまた先生方が性の話をしてくれたら、いいですね」と船木教諭。

その場限りの授業で終わらせたくない。だからこそ、現場の先生方を巻き込んで、教職員全員で折に触れ伝えたいのだという。

### 自尊意識を育てることから

性教育の指導の中には「境界線」という言葉もよく出てくる。

「たとえば、人のものであることはわかっている、勝手に取ってしまう子どもがいます。学べばわかるはずのことですが、もし自分の境界線が奪われていたら……。自分の場所がない、自分のものが大切にされないような経験をしていると、自分のもの他人のものとの区別がなくなってしまいます」

船木教諭は、「まずは、あなたは本当に大事な存在であり、あなたの体は大切なものであることを伝えたい。自分と人とはコミュニケーションというものでつながっていて、いろいろなルールがある。人にもものにも境界線があるというところから、ひとつひとつ子どもたちに伝えていく。僕は、性教育はそこからはじまっていくのだろうと思っています」

歌あり、ギターあり、クイズありと、船木教諭の授業は、まったく生徒たちを飽きさせない。じっとして授業を聞くのが苦手な子どもたちも、いつしか船木氏のペースにのって、笑ったり、手をたたいたり、いっしょにうたったり。そんな楽しい授業だが、ここに至るまでは、さまざまな試行錯誤があったという。それについては次号で報告する。

(取材・文 中出三重/エムシープレス)

LINE でつながる

ドクター

Dr.上村茂仁の

# 性の悩みクリニック

かみむら しげひと

ウイメンズクリニック・  
かみむら院長（岡山県  
岡山市）、医学博士

## 連載第 17 回 ▶▶ オナニーのやりすぎでしょうか？

オナニーを毎日のようにしています。

ネットなどで手に入る動画を見ながら行っているのですが、近頃はオナニー中勃起してもすぐに柔らかくなり射精してもあまり気持ちよくありません。

まだ 17 歳なのにすごく心配です。オナニーのやりすぎでしょうか。

まず、初めに言いますが、マスターベーション（オナニー）にやりすぎはありません。正しい方法である場合は一日に何度行っても大丈夫です。

よくテクノブレイク（マスターベーションのやりすぎで死亡すること）の質問やマスターベーションをやりすぎると最後に赤い玉が出てそのまま精子が作られなくなるとか聞かれますが、まったくそんなことはありません。学生時代、私は寮で 2 年間過ごしましたが、仲間たちは、ほとんど毎日マスターベーションをしていましたし、試験期間になるとさらに回数が増えているように思います。

やりすぎると頭が悪くなるとか、身長が伸びないとかの質問も聞かれますが、頭が悪くなるのはただ勉強をしてないだけ、マスターベーションに勉強時間を占拠されてしまった結果でしかありません。

身長伸びとの関係を示したデータもありません。体力がなくなるということもおかしな話で、そんな人はもっと体を鍛えればよいので、マスターベーションとは関係ありません。

ただし、やり方によっては将来の勃起障害や不妊症につながると言われていています。毎日のように行っていると刺激が足りなくなってきました。そのためより強い刺激を求めるようになり、今までより強く握るようになったり、動かすスピードも早くなったりします。さらに、それでも刺激が足りないと机のかどにこすりつけたり、うつ伏せになって畳にこすりつけたりするのを始める人がいます。

私の友人は電極をつけて軽く電流を流すことで快感をえていました。こうなってくると、将来、女性とセックスするとき、刺激が足りなく、勃起障害や射精障

害になる可能性は高くなります。

マスターベーションは、やはり正しく手で行うべきであり、時間もゆっくりかけることが大切です。指に飽きた場合は、ときには TENGA のような器具を使うのもよいでしょう。強い刺激に慣れて過ぎている人の場合、刺激の強い TENGA のタイプからだんだん弱いタイプに変更してゆくことで、軽い刺激でも満足できるようになります。

また、ネットや AV の普及により過激な画面を見ながらのマスターベーションに慣れてしまい、想像力を膨らませたマスターベーションが行われることがなくなっているという状況があります。自分の求める画像がいつでも手に入るようになると、想像力をはたらかせる必要がなくなるからです。

多くの場合、AV と同じような行動をとれば犯罪になります。AV のようなセックスを求められれば、大半の彼女は逃げていくでしょう。過激な AV に頼りすぎるマスターベーションをしていると、実際のセックスは物足りないものになります。その結果、勃起障害や射精障害が起きるわけです。やはりマスターベーションはできるだけ想像力を膨らませて行いましょう。写真や画像がなくても想像力を働かせて、心を豊かにし、時間をゆっくりかけて行うことができるようになるのが理想かもしれません。

これらのことを実現させるためには、ゆったりとリラックスした時間が必要です。壁や床、お風呂のタイルなどのモノに頼らない姿勢で、邪魔の入らない状況を作ることが大切なのです。

正しいマスターベーションは、「イメージ力」「低刺激」「リラックス」、この 3 つが合言葉です。

# BOOK GUIDE

## 今月のブックガイド

### リアルな現場の「今」

「50代になってもまだ性欲ってあるんですか？」と先日、20歳そこそこの子に聞かれた。一瞬ギョッとしたが、「まあ、機能的には若いときのような感じじゃないけど、欲望のありようはそんなに変わらないんじゃない？」と応えて、「そうなんですかー」とたいそう驚かれた。

若い世代にしてみれば、熟年のおっさんやおばさんが性的な欲求を抱えていることを想像するのはなんだか気持ちが悪いし、それはそのまま自分たちの親が性的存在であることを突きつけられるようで、どうにも不快なのだろう。家庭というのは親同士の性的なつながりの空間でありながら、それを周到に隠蔽することで成り立っているのだから。

そして、そういう建前を可能にしていたのは、以前なら子育てを終えると少なからずの身体が衰え、病に倒れるなどして、早々に死んでいったからだ。日本人男性の平均寿命は50年前には67.74歳、女性は72.92歳だったものが、現在ではそれぞれ80.79歳、87.05歳にまで伸びている。65歳以上が総人口の約27%を占めるようになった高齢社会。こんなに人々が長生きをするようになったのは歴史上初めてのことで、今後、私たちは未曾有の経験をしていくことになるはずだ。

寿命が長くなり、熟年以降の健康状態も向上すると、これまで想定されていなかったライフコース後半の性の問題がクローズアップされてきた。本書『熟年婚活』はそういう社会変動の中で生じている性の光景取材した一冊で、非常に生々しくもあるが、リアルな現場の「今」を伝えてくれる。

例えば、老人ホームの中で繰り広げられる恋愛やセックスをめぐる人間模様。「このホームでは、年金のない男性が多いので、100円ショップで買って来たイ



### 熟年婚活

家田荘子著  
角川新書  
定価 800円＋税

ヤリングやブローチ、巾着などをプレゼントしたり、安いお菓子を貢ぎ続ける。その結果、一人の男性を選ぶと、敗者は去ることがホーム内の暗黙のルールになっていた」。切なくなる話だが、本書がレポートする性の現実において「経済」の問題はことのほか重要だ。

婚活ツアーでは、女性は看護師さんに人気が集まる傾向があるという。というのも、男性は、婚活イコール老後の生活というリアルな意識があるから。つまり、男性は相手の女性に老いた後の自分のケアを求めている。女も男のことを言えない。著者が婚活パーティで取材した高齢男性が、出会う女性たちに資産や収入や不動産について遠慮なく聞かれることにうんざりしている様子が綴られている。老後であっても、女性が男性に求めるのが経済力であることは間違いなく、そういう男性に人気が集まるのもまたジェンダーの表れなのである。

再婚などの場面ばかりでなく、表出した性への欲求は家族関係そのものにも影響を与えるかもしれない。息子夫婦と同居する男性が、息子の妻（嫁）に対して欲求を抑えるのに苦勞していることが語られている箇所があった。もちろん、こういう例はこれまでも水面下であったわけだが、人生で性行動が活発な期間が長くなればなるほど、無視できない「家族問題」として浮上するかもしれない。

けれども、長寿と健康によって生じた性の余剰を厄介なものとするよりも、むしろそれを、高齢期をより生き生きとさせるために活用する、という視点に立てば、また別の可能性も見えてくる。老人ホームの章で紹介される、施設での出会いによって晩年のよき時間を過ごす人たちのエピソードは、その光明を十分予感させてくれるはずだ。人はどんなに年老いても、誰かを必要としたり、必要とされることに意義を見出す存在なのだろう。たとえそれが夫婦や家族でなくても。

(作家 伏見憲明)

**9/2 (土)**  
13:30~15:30

## 第8回世界性の健康デー記念イベント2017 in 岩手 北東北性教育研修セミナー in Iwate

### 性の健康と医療へのアクセスを考える — インターセックスの経験から —

性の健康デーにあわせ、香港からインターセックス活動家の  
スモール ルック  
Small Luk さんをお招きして開催します。(通訳付き)

**会場** プラザおでって 3階大会議室  
岩手県盛岡市中ノ橋通 1-1-10 TEL 019-604-3300 ※会場の問い合わせのみ

#### 参加費・申込み先等

参加費：無料  
対象：関心のある方ならどなたでも  
定員：50名（空席のある場合に限り当日参加可）  
主催：北東北性教育研修セミナー実行委員会 協賛：日本性教育協会  
申込み先：E-mail [iwaterainbownetwork@gmail.com](mailto:iwaterainbownetwork@gmail.com) TEL 080-1064-4269（セミナー岩手事務局・山下）  
郵送 青森市安方 1-3-24 北東北性教育研修セミナー実行委員会  
※お名前（通称可）・連絡先を明記して8月26日までにお申込下さい。

**9/3 (日)**  
13:00~17:00

## 第8回世界性の健康デー記念イベント2017 in 東京 東京性教育研修セミナー 2017 夏

### Love, Bonding and Intimacy 愛とは。絆と親密のウラオモテ。

#### 内容

- 13:00 開会  
13:15 演題①「愛を知る道のり」  
(NPO法人 Umiのいえ代表 齋藤麻紀子氏)  
14:15 演題②「セックスワークから見る LOVE」  
(手コキ研究会代表 今賀はる氏)  
15:15 演題③「不倫・浮気と純潔・貞操：パートナーの数から見た人間の性行動」  
(お茶の水女子大学准教授 石丸径一郎氏)  
16:15 閉会

**会場** ルークホール（東京都新宿区四谷 1-7 持田製薬本社ビル内）

#### 参加費・問い合わせ先等

参加費／一般 1,500円 学生 1,000円（学生証持参） 定員 130名  
主催／世界性の健康デー東京大会実行委員会 協賛／日本性教育協会 後援／日本性機能学会、日本性感染症学会、日本思春期学会ほか  
問合せ・申込み先／<https://ws.formzu.net/fgen/s5233147>

10/14 (土)  
13:00~17:00

## 第18回日本性科学連合(JFS)性科学セミナー

### これからのオチンチンの話をしよう ー 男性セクシュアリティへの理解と支援 ー

#### 内容

日本性科学連合加盟7団体（日本性教育協会、日本性科学会、日本家族計画協会、日本思春期学会、日本性機能学会、日本性感症学会、性の健康医学財団）から7名の講演が行われます。

#### 会場

大阪府立大学 I-site なんば  
(大阪市浪速区敷津東2丁目1番41号 南海なんば第1ビル)

#### 参加費・問い合わせ先等

**参加費** / 3,000円 (学生1,000円)、性科学セミナー+日本性科学会学術集会(14日・15日両日参加)7,000円(早割6,000円 学生2,000円)、性科学セミナー+日本性科学会学術集会合同懇親会(14日17:30~)3,500円  
**申込先** / 第37回日本性科学会学術集会事務局 (〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1 東優子研究室)  
 E-mail: JSSS37@ml.osakafu-u.ac.jp

**問合せ先** / 日本性科学連合 (JFS) 事務局 (〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-3-4F 日本性科学会内)  
 TEL: 080-1242-5025 FAX: 03-3396-8226 E-mail: info@jfs1996.jp URL: http://www.jfs1996.jp

※翌15日(日)は同会場にて第37回日本性科学会学術集会「セクシュアリティと教育・福祉・医療の交錯」が開催されます。

## 2014年3月 WAS 諮問委員会で承認された改訂版「性の権利宣言」を増補

### 〈増補版〉『セクシュアル・ヘルスの推進 行動のための提言』

日本語版監修 松本清一・宮原 忍 ◆B5判:72頁、頒価800円

**主な内容** セクシュアル・ヘルスの特徴/セクシュアル・ヘルス上の留意点と問題/セクシュアル・ヘルス増進のための行動と戦略/WASの「性の権利宣言(初版)/WASの「性の権利宣言」(改訂版)

※送料:1冊250円、2冊~7冊360円、8~9冊510円、10~12冊870円、13冊~19冊1180円、20冊以上無料。



### 性教育ハンドブック Vol.6

### 『「ありのままのわたしを生きる」ために』

土肥いつき著 ◆A5判:86頁、頒価500円



**主な内容** 港にて(自分史の試み…) / 船出のとき(小さなトゲのような思い…) / 帆をあげる(教員生活のはじまり…) / 舵を切る(「身体改造の」開始…) / 嵐の中で / かすかに見えた航路 / 新たな旅へ

**著者プロフィール** 1985年より京都府立高校教員。セクシュアルマイノリティ教職員ネットワーク副代表、トランスジェンダー生徒交流会世話人、まんまるの会(関西医科大学附属病院ジェンダークリニック受診者の会)世話人代表など。映画『coming out story』に出演。

#### 既刊〈性教育ハンドブック〉

☆性教育ハンドブック Vol.5 『21世紀の課題=今こそ、エイズを考える』池上千寿子著 A5判・68頁500円

☆性教育ハンドブック Vol.4 『性教育の歴史を尋ねる~戦前編~』茂木輝順著 A5判・92頁500円

※送料:1~4冊180円、5冊~8冊360円、9冊510円、10~14冊870円、15冊~19冊1180円、20冊以上無料。

◆JASE ホームページ <http://www.jase.faje.or.jp/pub/pub.html> からお申し込みいただけます。

または、Email [info\\_jase@faje.or.jp](mailto:info_jase@faje.or.jp) TEL 03-6801-9307 FAX 03-5800-0478

関西性教育研修セミナー 10周年記念誌

# 性について、語る、学ぶ、考える



昨今は、性教育・性科学の世界にも新しい風が吹きつつある。性教育をめぐる5W1H（誰が、何を、誰に、いつ、どこで、どのように教えるのか）には、異なる価値観の対立が伴うがゆえに、時として激しいバッシングに見舞われることもある。同時代を生きる古い仲間や新しい仲間とのつながりを大切にしつつ、性教育を次世代につなぐために自分たちにできることは何かを常に問い続けてゆきたい。

本書は、関西性教育研修セミナーの10年間の取り組みをまとめるとともに、セミナー登壇者の何人かにお願いし、現在の性の課題と今後の展望について執筆いただいた。さまざまな現場や経験に基づくバリエーションある報告は、まさに性の幅広い側面を示している。

- 編集／関西性教育研修セミナー実行委員会
- 発行／日本性教育協会
- A4判・ソフトカバー 128頁
- 頒価 800円

主な目次

性暴力

教育現場における性暴力被害への支援と課題／野坂祐子  
性暴力の「理解」と「治療教育」を求めて／藤岡淳子  
規定される性、聞こえない声。／岡田実穂  
資料

HIV / AIDS

記者から見たエイズ対策／宮田一雄  
「ちいさな学校」の経験／ブ・ド・ラ・マドレーヌ  
HIV / エイズについての医療現場からのメッセージ／白野倫徳  
HIV と性の健康／生島 嗣  
資料

性の多様性

「語る」社会か「語らなくていい」社会か／土肥いつき  
性別違和と子どもたち／康 純

「性」について考えること：西から東、そして北東北へ／宇佐美翔子  
「性の多様性」と共生する社会に向けて／東 優子  
資料

性教育

30年の性教育の実践／秋山繁治  
知的障がいのある生徒への性の指導と支援／池川典子  
LGBTを排除しない性教育のあり方／東 優子  
資料

性と社会

社会は性に蓋をかぶせる／池上千寿子  
「死にたいと思いつつも、助けてほしい」／渋谷哲也  
二人の性科学者と Nature vs. Nurture 論争／東 優子  
性科学／教育の過去・現在・未来／ミルトン・ダイヤモンド  
資料

◆本書は JASE ホームページ <http://www.jase.faje.or.jp/pub/pub.html> からお申し込みいただけます。

または、Email [info\\_jase@faje.or.jp](mailto:info_jase@faje.or.jp) TEL 03-6801-9307 FAX 03-5800-0478 までお申し込みください。